

とよしん 景況調査

NO.135

2024年4月発行

- 景況アンケート調査
(2024年1月～3月期実績 2024年4月～6月期見通し)
- 特別調査
- スポットライト ～がんばる地元企業～
(掲載企業：株式会社ワイエムジー)







































豊橋信用金庫

《第135回景況アンケート調査》

総括判断

『当地区の景況は、一部業種に足踏みがみられるものの、緩やかに改善している。』

とよしん景況天気図(業況DI)

	2023年 1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	当期実績 2024年 1~3月	来期見通し 4~6月
全業種総合	 ▲1.9	 4.3	 3.5	 7.4	 1.6	 2.5
製造業	 ▲7.9	 1.4	 ▲1.5	 9.3	 ▲4.3	 ▲0.7
卸売業	 1.4	 0.0	 0.0	 1.7	 8.1	 3.2
小売業	 ▲6.3	 6.3	 0.0	 6.3	 4.8	 1.6
サービス業	 2.7	 5.7	 5.5	 13.5	 1.3	 6.6
建設業	 0.0	 7.4	 6.4	 6.4	 4.7	 3.8

《天気図の見方(DI)》



《調査要領》

調査期間

2024年2月1日(木)～2月29日(木)

調査対象時期

2024年1月～3月期実績
2024年4月～6月期見通し

調査方法

当金庫職員による聞き取りアンケート調査

調査対象企業

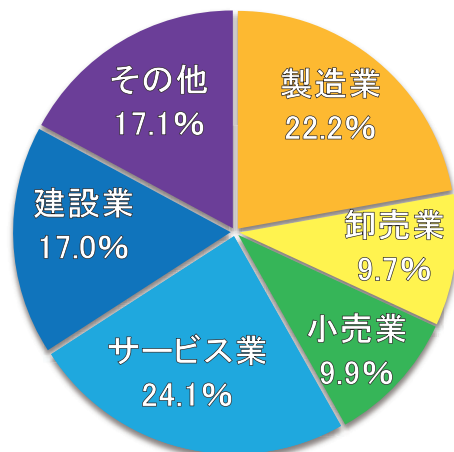
当金庫お取引先企業 636社

分析方法

DI(ディフュージョン・インデックス)を中心とした分析

※DIとは、各調査項目で「増加(上昇・良い)」と回答した企業割合から、「減少(下降・悪い)」と回答した企業割合を差し引いた値を指数化したものをいいます。

調査対象企業(636社)の内訳



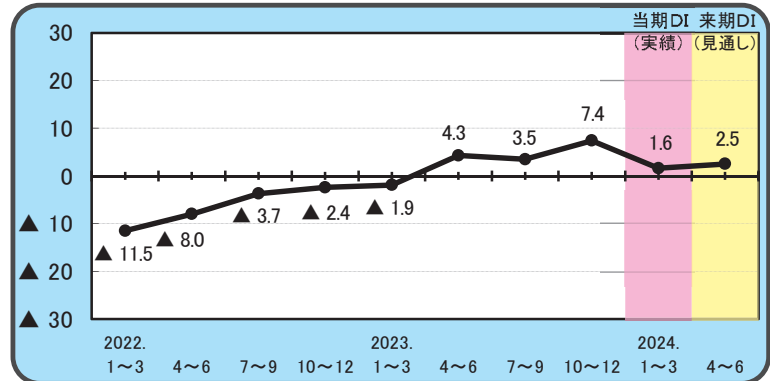
全業種総合

～業況・収益は改善、売上は悪化～

業況

【当期(1～3月)DIの実績】
1.6 (前期比▲5.8ポイント)

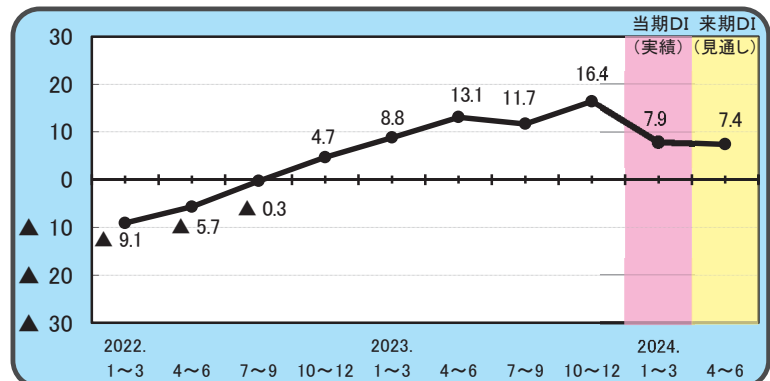
【来期(4～6月)DIの見通し】
2.5 (当期比+0.9ポイント)



売上

【当期(1～3月)DIの実績】
7.9 (前期比▲8.5ポイント)

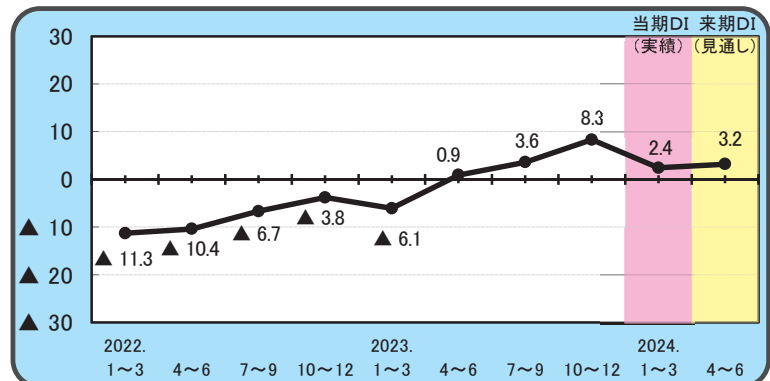
【来期(4～6月)DIの見通し】
7.4 (当期比▲0.5ポイント)



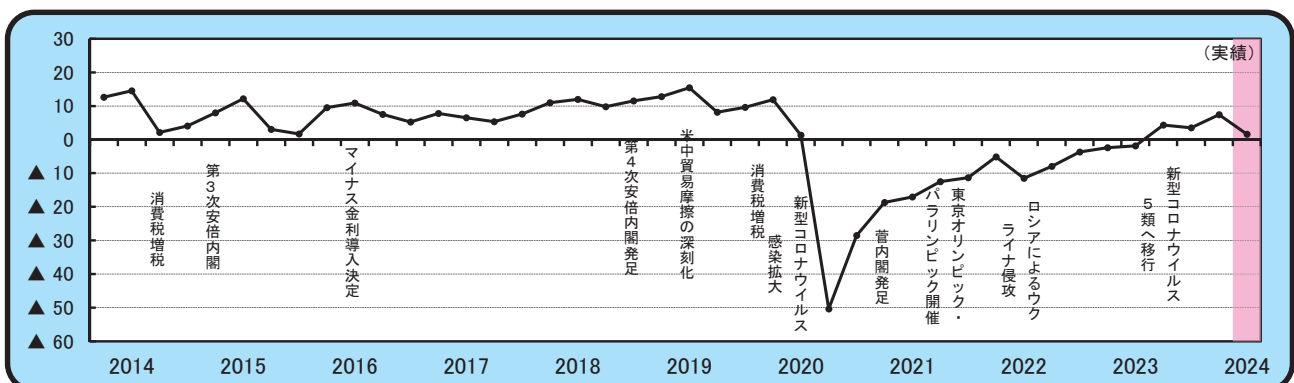
収益

【当期(1～3月)DIの実績】
2.4 (前期比▲5.9ポイント)

【来期(4～6月)DIの見通し】
3.2 (当期比+0.8ポイント)





過去10年間の業況DI推移



製造業

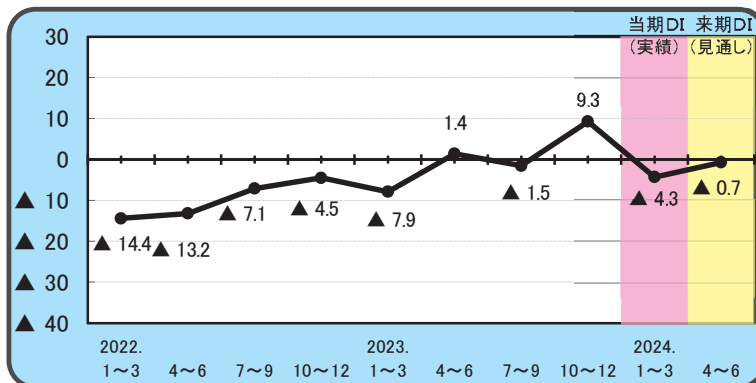
～業況・売上・収益すべて悪化～

当期業況DI (実績) 2024年1～3月	来期業況DI (見通し) 2024年4～6月
 ▲4.3	 ▲0.7

業況

【当期(1～3月)DIの実績】
▲4.3(前期比▲13.6ポイント)

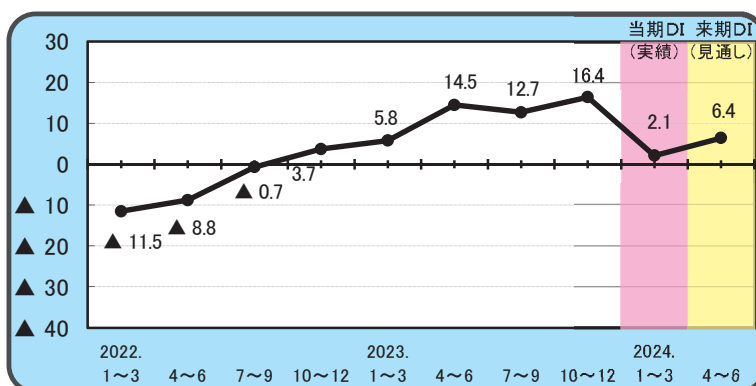
【来期(4～6月)DIの見通し】
▲0.7(当期比+3.6ポイント)



売上

【当期(1～3月)DIの実績】
2.1(前期比▲14.3ポイント)

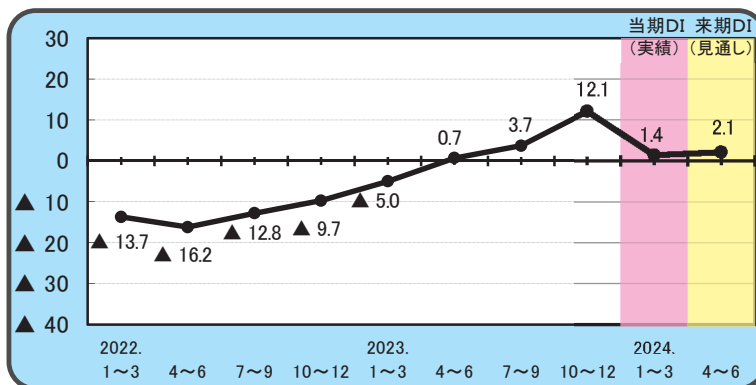
【来期(4～6月)DIの見通し】
6.4(当期比+4.3ポイント)



収益

【当期(1～3月)DIの実績】
1.4(前期比▲10.7ポイント)

【来期(4～6月)DIの見通し】
2.1(当期比+0.7ポイント)



- 自動車メーカーの不正問題、原油高、物価高などの影響が見られ当期の業況DIは低下。
- 電気機器関連では、精密機器において自動車メーカーなど取引先からの需要は旺盛であるものの、半導体不足は依然続いており、原材料価格の高値で推移している。また、上流からのコストカット要求も強く、価格転嫁が十分実施できているとは言えない。
- 自動車関連は、依然として半導体や部品不足による生産調整を受けている。また、トヨタ関連の認証不正問題に伴い、稼働停止などの影響も見られたが、現行は再開している。
- 菓子製造関連は、引続きインバウンド需要により観光地からの受注が増加し、売上は回復傾向にあるが、原材料費、運送費、人件費等高騰分が収益を圧迫している。

卸売業

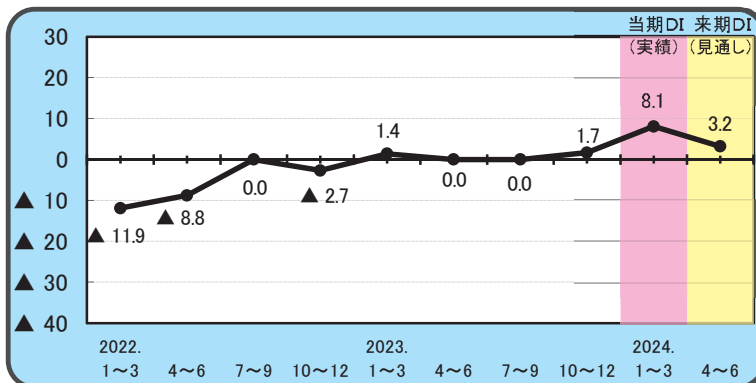
～業況・収益は改善、売上は悪化～

当期業況DI (実績) 2024年1～3月	来期業況DI (見通し) 2024年4～6月
☁️ 8.1	☁️ 3.2

業況

【当期(1～3月)DIの実績】
8.1 (前期比+6.4ポイント)

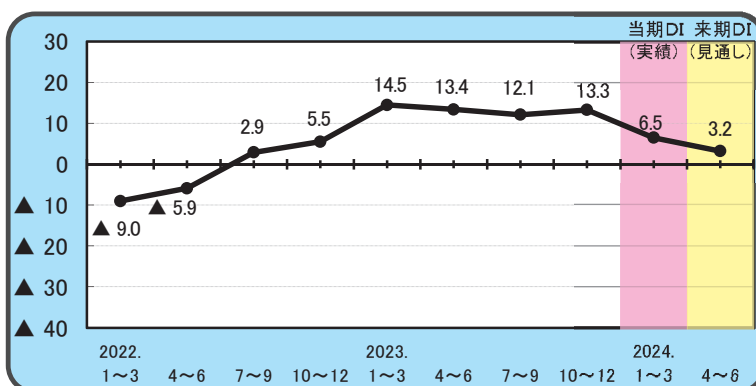
【来期(4～6月)DIの見通し】
3.2 (当期比▲4.9ポイント)



売上

【当期(1～3月)DIの実績】
6.5 (前期比▲6.8ポイント)

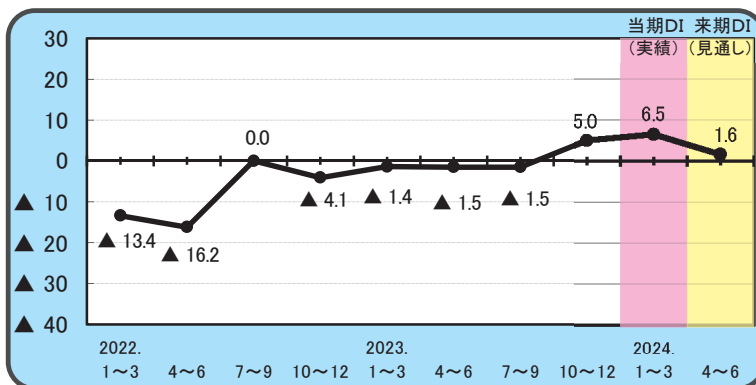
【来期(4～6月)DIの見通し】
3.2 (当期比▲3.3ポイント)



収益

【当期(1～3月)DIの実績】
6.5 (前期比+1.5ポイント)

【来期(4～6月)DIの見通し】
1.6 (当期比▲4.9ポイント)



- ・価格転嫁が実施できているとの意見も見られるなど、当期の業況DIは上昇している。
- ・土産、業務用等食品関連卸は順調に推移している。
- ・木材関連は、各種資材が物価高の影響で値上がりしている中、国産材価格の高騰は落ち着いているものの、高止まりが続いている。また、住宅新築需要が減少していることから、建築業者からの受注も例年と比べ低調となっている。
- ・建築・内装資材関連は値上げが続いており、住宅価格の高騰につながっていることから、需要停滞の要因となっている。また、思い切った価格転嫁ができれば業況悪化につながる可能性もある。

小売業

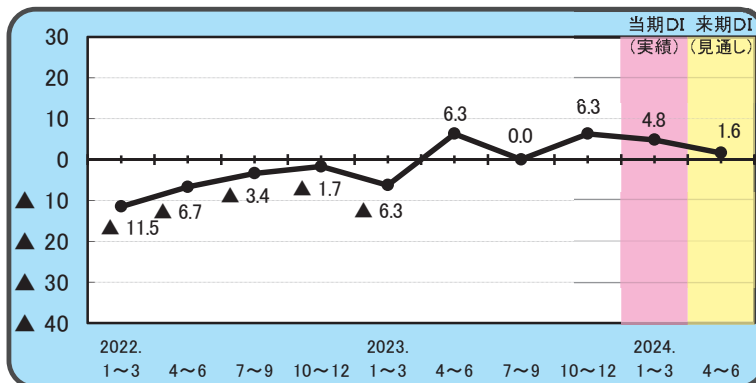
～収益は改善、業況・売上は悪化～

当期業況DI (実績) 2024年1～3月	来期業況DI (見通し) 2024年4～6月
☁️ 4.8	☁️ 1.6

業況

【当期(1～3月)DIの実績】
4.8 (前期比▲1.5ポイント)

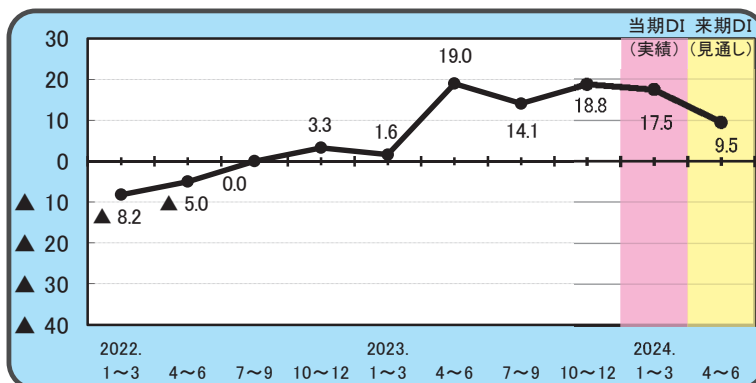
【来期(4～6月)DIの見通し】
1.6 (当期比▲3.2ポイント)



売上

【当期(1～3月)DIの実績】
17.5 (前期比▲1.3ポイント)

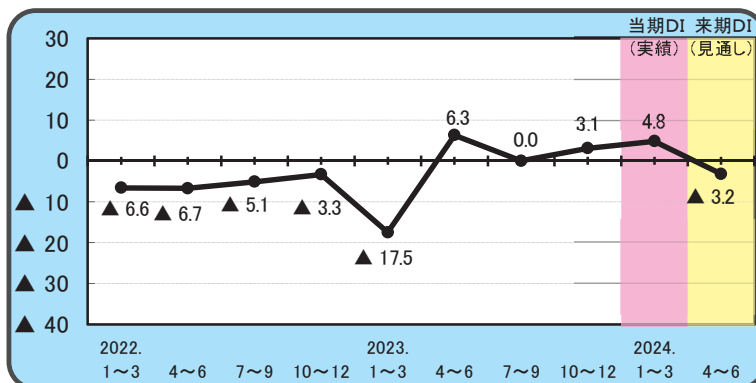
【来期(4～6月)DIの見通し】
9.5 (当期比▲8.0ポイント)



収益

【当期(1～3月)DIの実績】
4.8 (前期比+1.7ポイント)

【来期(4～6月)DIの見通し】
▲3.2 (当期比▲8.0ポイント)



- ・年末商戦の反動や物価高などから業況DIは低下している。
- ・コロナ感染症の5類移行以後、人流が戻り売上は増加傾向にあるが、コロナ禍で削減した人員を元通り確保できず、人手不足に陥っている小売店も見られる。人材不足や顧客ニーズの多様化などから、付加価値のある売り場づくりやSDGs経営の強化などが必要となってきた。
- ・自動車の新車販売台数は前年同期よりも落ち込んでいる。中古車市場が活況となっているなか、大手メーカーの車検不正や中古車販売店の不正問題のほか、物流業界の2024年問題も市場へ影響を及ぼす恐れもあり、販売環境は不透明な状況となっている。

サービス業

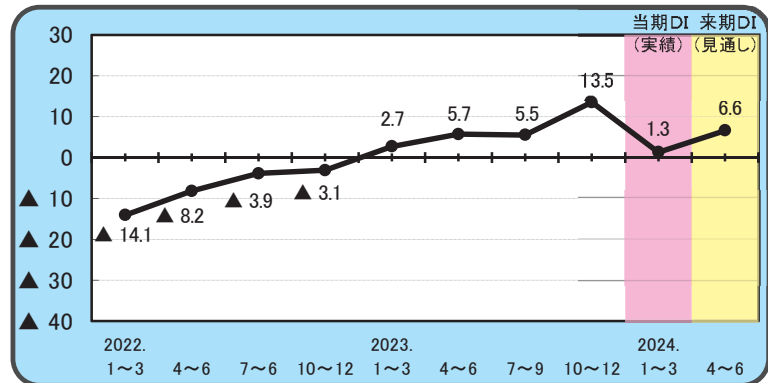
～業況・収益は改善、売上は横ばい～

当期業況DI (実績) 2024年1～3月	来期業況DI (見通し) 2024年4～6月
☁️ 1.3	☁️ 6.6

業況

【当期(1～3月)DIの実績】
1.3(前期比▲12.2ポイント)

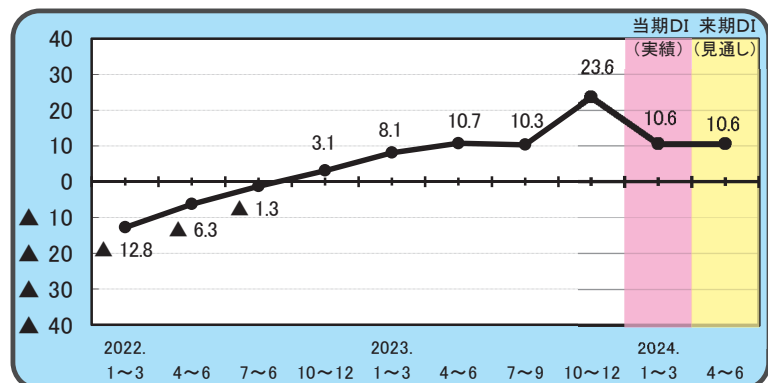
【来期(4～6月)DIの見通し】
6.6(当期比+5.3ポイント)



売上

【当期(1～3月)DIの実績】
10.6(前期比▲13.0ポイント)

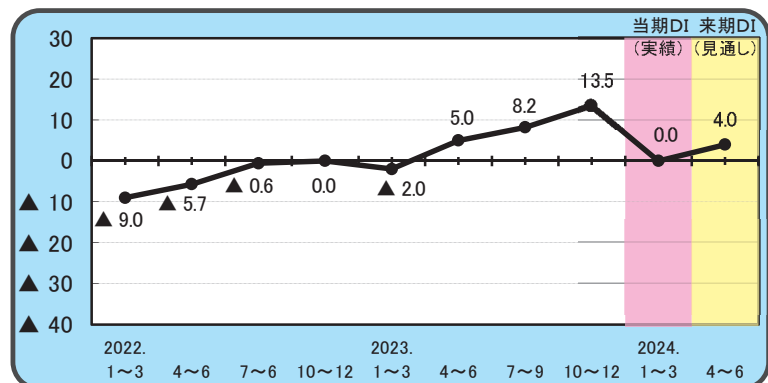
【来期(4～6月)DIの見通し】
10.6(当期比±0.0ポイント)



収益

【当期(1～3月)DIの実績】
0.0(前期比▲13.5ポイント)

【来期(4～6月)DIの見通し】
4.0(当期比+4.0ポイント)



- ・年末の反動や物価高の影響などから、当期の業況DIは低下している。
- ・飲食業は、引続き材料費の高騰などが収益を圧迫しており、価格転嫁が引続き課題。人手不足も深刻であり、賃上げ対応しても解消に至らない状況が見られる。
- ・旅行業・宿泊業では、全国的には現地出張のビジネスマンの増加、春節などによる中国等アジア旅行者は増加。外国人旅行者においてもモノ消費からコト消費に需要は移りつつあり、観光名所がある県の観光、宿泊業の需要増加が見込まれる。
- ・医療・保健衛生業では、医療材料、機器等の値上げに加え、時間外労働の上限規制適用に伴う人材確保や賃上げ対応、医療DXの取組みなどによる負担増加が懸念されている。

建設業

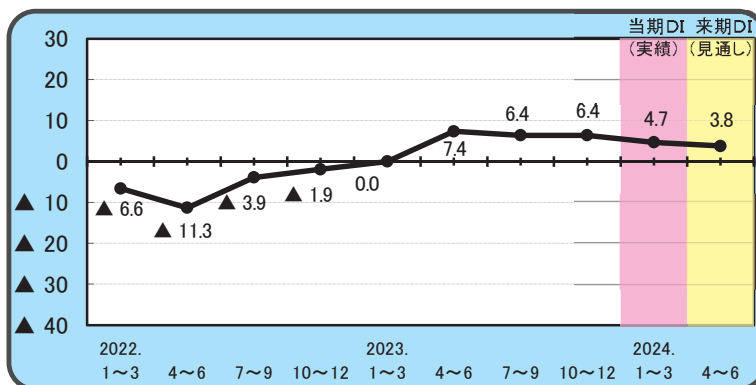
～業況・売上・収益すべて悪化～

当期業況DI (実績) 2024年1～3月	来期業況DI (見通し) 2024年4～6月
☁️ 4.7	☁️ 3.8

業況

【当期(1～3月)DIの実績】
4.7 (前期比▲1.7ポイント)

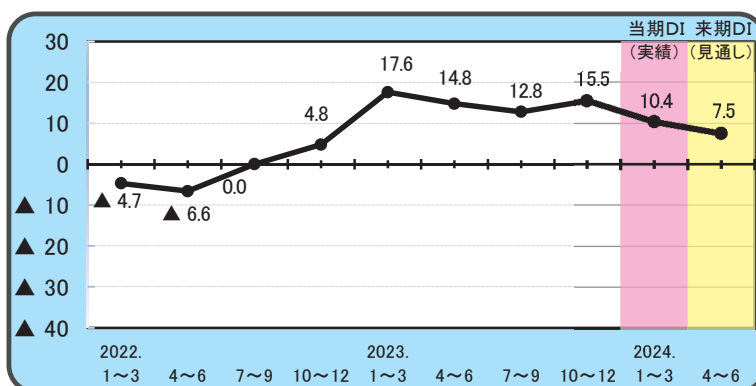
【来期(4～6月)DIの見通し】
3.8 (当期比▲0.9ポイント)



売上

【当期(1～3月)DIの実績】
10.4 (前期比▲5.1ポイント)

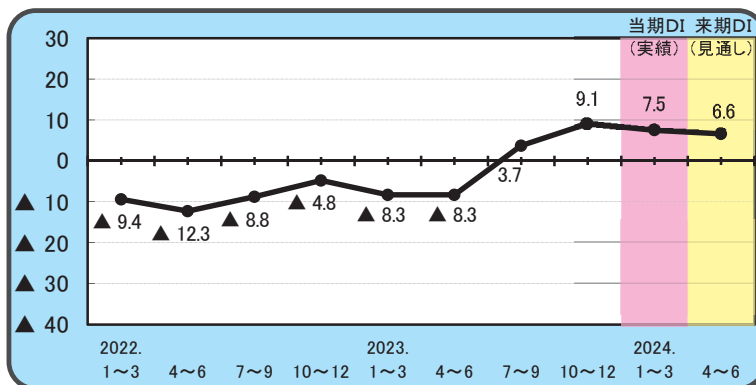
【来期(4～6月)DIの見通し】
7.5 (当期比▲2.9ポイント)



収益

【当期(1～3月)DIの実績】
7.5 (前期比▲1.6ポイント)

【来期(4～6月)DIの見通し】
6.6 (当期比▲0.9ポイント)



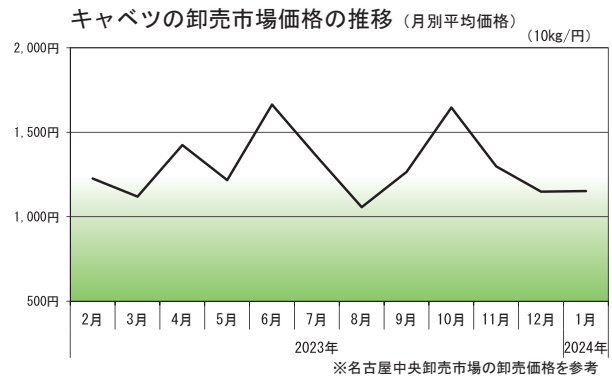
- ・建設資材やエネルギー価格の高騰が続き、収益を圧迫していることなどから当期の業況DIは低下。人手不足(特に技能労働者や若手人材)も引続き課題であり、2024年問題対応や昨今の賃金引上げへの風潮も負担となっている。中小企業には、大手事業者のように賃金引上げをする余力がない先も多く、ますますの人手不足の深刻化が懸念される。
- ・住宅新築においては、建築コストの上昇により施工主の予算との乖離が大きいケースが多くみられ、消費者マインドに影響を及ぼしている。
- ・公共工事については、年度末期限の工事により受注は旺盛であるが、人手不足や価格設定により利益確保に苦慮しており、引続き原価管理を徹底していく必要がある。

その他

- ・農業（キャベツ・輪菊）
- ・水産業（養鰻）・運輸業・不動産業

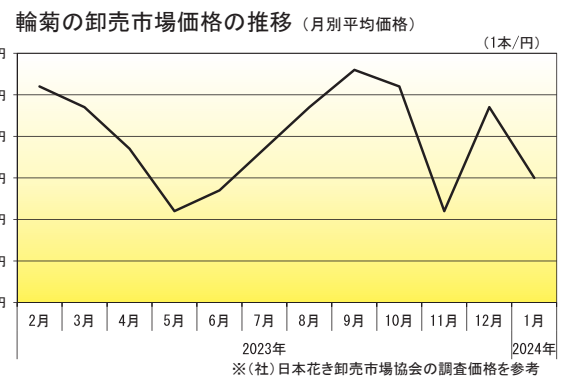
農業（キャベツ）

例年1～4月は出荷のピークとなる。価格相場は1月に低迷した時期もあったものの、2月は高値で推移。ただし、暖冬で全国的にも生育が早く、今後は価格下落が予想され、価格下落による粗利、収益性の低下も見込まれる。



農業（輪菊）

年始、お彼岸などで需要は高まっている。円安や輸送費高騰により輸入が少なく、またA重油の価格高騰で作付けしない農家もあり供給量は減少し、価格は高値で推移。しかし、燃料、肥料など生産コストが上昇していることから、収益面は厳しい状況が続いている。



水産業（養鰻）

2023年のシラス漁獲量は最盛期の4分の1程度であり、依然高値が続いている。春にかけて浜名湖近海の漁獲量が増加する傾向にあるため期待している状況。暖冬で暖房費は抑えられているが、引続きコスト上昇分の価格転嫁が課題となっている。

運輸業

EC市場拡大等に伴い、宅配など運送需要は引続き増加傾向にあるが、2024年問題対応やドライバー不足、燃料費高騰、競争激化等から引続き収益確保が課題。中小企業を中心に後継者不在等からM&Aも活発化しており、2024年問題対応も絡む業界再編の動きも見られる。

不動産業

豊橋市は、人気エリアを除き不動産価格が低下傾向にある。郊外では農地の宅地化が進んでおり、古い住宅地の価格の下落も見られる。豊川市は、イオンモール近隣駅付近での住宅やアパート新築、伊奈駅付近の土地分譲などが盛んであり、若年層の流入が期待されている。

《特別調査》「物流の2024年問題」の影響について

《調査要領》

調査期間

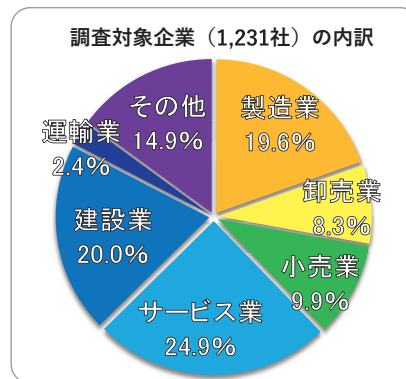
2024年2月1日(木)～2月29日(木)

調査方法

当金庫職員による聞き取りアンケート調査

調査対象企業

当金庫お取引先企業 1,231社

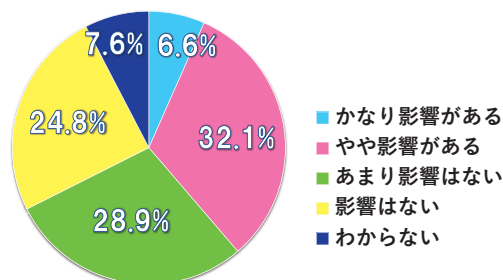


●問1. 貴社の物流の2024年問題におけるマイナスの影響についてお答えください。

全業種総合では、「かなり影響がある」が6.6%、「やや影響がある」が32.1%、「あまり影響はない」が28.9%、「影響はない」が24.8%となった。

運輸業では、「かなり影響がある」「やや影響がある」と回答した先が93.4%となった。

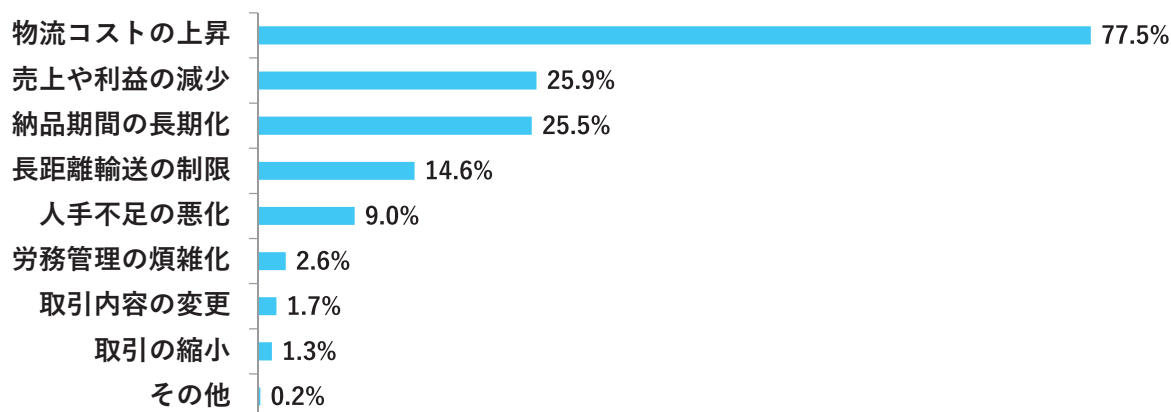
<全業種総合>



●問2. 問1で「1：かなり影響がある」「2：やや影響がある」とお答えされた方にお伺いします。貴社の2024年問題における主な影響についてお答えください。（複数回答・最大3つまで）

全業種総合で回答割合が高い項目は、「物流コストの上昇」が77.5%、「売上や利益の減少」が25.9%、「納品期間の長期化」が25.5%などとなった。

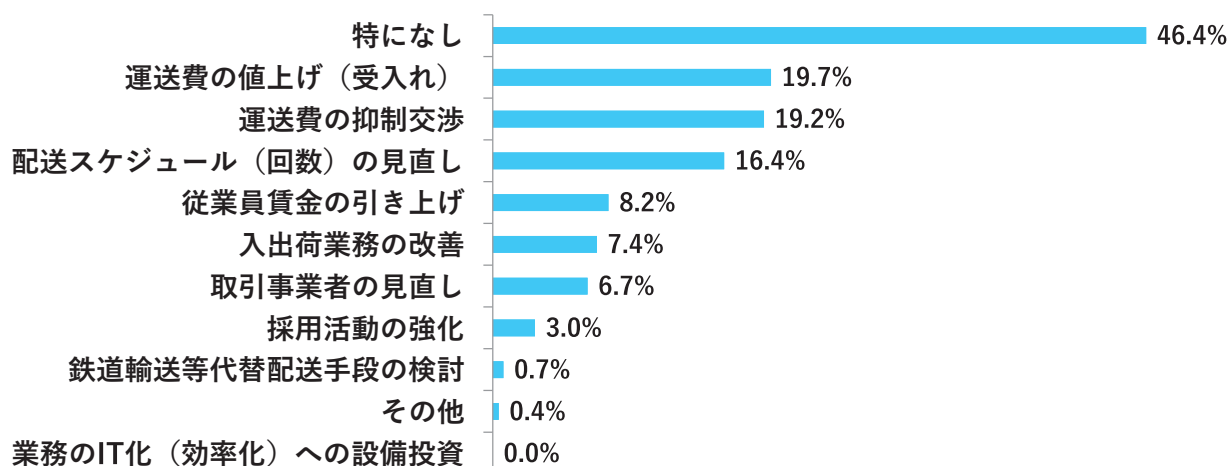
なお、業種別では、「物流コストの上昇」は製造業（85.5%）、卸売業（90.5%）で8割超となった。



●問3. 貴社の2024年問題への対応についてお答えください。(複数回答・最大3つまで)

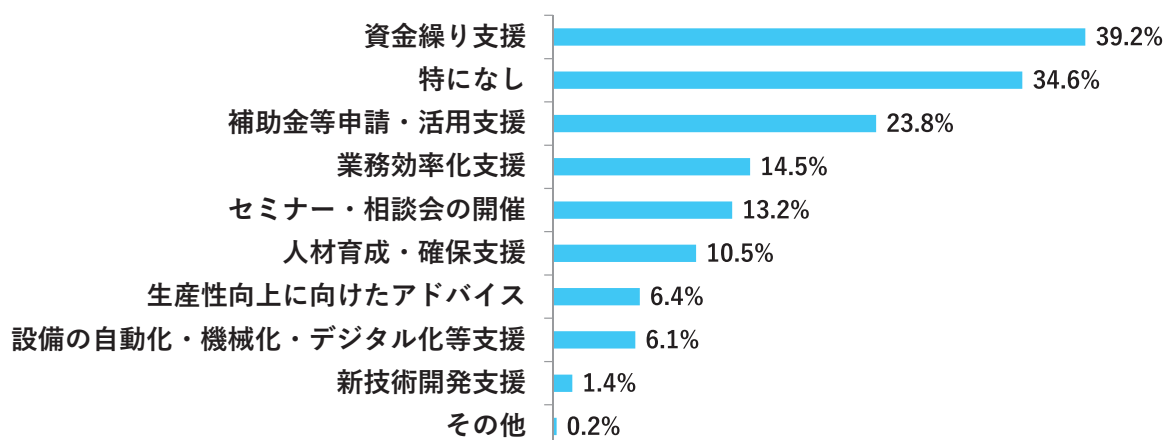
全業種総合で回答割合が高い項目は、「特になし」46.4%、「運送費の値上げ（受入れ）」19.7%、「運送費の抑制交渉」19.2%などとなった。

業種別では、「運送費の値上げ（受入れ）」は、製造業（31.1%）、卸売業（36.8%）、運輸業（60.0%）、「運送費の抑制交渉」は製造業（32.8%）、卸売業（38.7%）、小売業（21.1%）で全業種総合よりも高くなった。



●問4. 2024年問題に対して、金融機関に求める支援策等は何ですか。(複数回答・最大3つまで)

全業種総合で回答割合が高い項目は、「資金繰り支援」39.2%、「補助金等申請・活用支援」23.8%、「業務効率化支援」14.5%などとなった。



スポットライト ～がんばる地元企業～



無人化システムで人間の力を解放する
株式会社 **ワイエムジー**

所在地：愛知県豊橋市雲谷町上ノ山 234
事業：オートローダー装置、ロボットシステム
装置自動化装置の設計製作・販売 等
代表者：山本 祐一郎
設立：1977年4月
従業員：30名
TEL：0532-41-6061



YouTube



Instagram

社会課題を成長のエンジンに。 無人化システムを活かした新たな挑戦が始まる。

オートローダー装置などのFA（Factory Automation：工場の自動化）機器を設計・製造する株式会社ワイエムジー（代表取締役 山本 祐一郎）による、新たな挑戦が始まった――。

2023年3月に開設した「YMG CARRIER PARK」では、創業以来45年以上かけて培ってきた無人化システムのノウハウを最大限に発揮した新搬送装置で、「物流業」や「農業」など、人手不足に悩む生産現場をサポートする事業を新たに展開している。

無人化システムのパイオニア。業界最速級の「ガントリーローダー」が、ものづくり大賞を受賞

株式会社ワイエムジー（以下、「当社」という）は、1977年に豊橋市豊清町で創業したFA機器メーカーである。国内自動車メーカー向け「ガントリーローダー」などの無人化装置製造の本格始動に伴い、東細谷町への本社移転を経て、現在の雲谷町に本社および工場を構える。

当社の主力製品となる「ガントリーローダー」は、業界最速級のスピードで、工場内の加工物を運ぶ革新的な自動搬送装置である。そのスピードは“300m/分”（10kgの加工物を掴んだ場合）にもおよぶ。この業界最速級のガントリーローダーは、その搬送速度の実現と小型化などが評価され、「2017年度 豊橋商工会議所ものづくり大賞」を受賞した。

2021年4月からは、子ども向けロボットプログラミング教室「ロボ団」を展開し、地域の子どもたちが発想力や創造力を身につける学びの場も提供している。



新たな挑戦を後押しする企業風土 ×平均年齢35歳の若きエンジニア集団

当社は、「疑問を持ったらず先ずは実行してみる」を行動理念に掲げ、新たな挑戦を後押しする企業風土を築いてきた。取引先のニーズは一つひとつ異なるため、全く同じ装置を製造するということがない。そのため、様々な装置を設計するたびに、個人のアイデアや思想が必要とされ、それが反映されることも当社の特長となっている。

また、当社は、代表者・山本祐一郎の44歳を筆頭に、平均年齢が35歳と若い。そして、設計・製造業務を担う従業員全員がエンジニア出身、または、社内育成によるエンジニアであり、全員が技術者集団であるという自信と責任を持って、こだわりを持った「ものづくり」をしてきた。



当社エンジニア集団の仕事ぶりを、YouTubeでも紹介している

「コロナを機に変容した世の中の動き」と 「人手不足などの社会課題」と向き合う

当社の主な取引先である自動車業界では、「100年に一度の変革期」を迎える中で、自動化やEV化などの技術革新が進んでいる。当社としても、その変革の一助となるような取組みを進めてきた。

そのような中、新型コロナウイルス感染症が拡大し、世の中ではさまざまな変化が起こった。とりわけ、当社が着目したのは、外出自粛などの行動制限がある中、自宅に居ながら買い物するECの急拡大により、それに伴い必ず付随する「配送」に関する問題が山積していることに気づいた。

また、物流業界を含め、さまざまな業界において「人手不足」という共通課題がある中、当社が保有する無人化システムのノウハウを活用して、社会課題の解決に役立てないか検討を進めることとした。

新規プロジェクト「YMG CARRIER PARK」は、 従業員全員が“自分事”として捉える機会に。

上述した背景より、当社では、自動車業界だけでなく、さまざまな業界・分野における無人化の課題を解決すべく、新規プロジェクト「YMG CARRIER PARK」を立ち上げた。

初めに、各部門の中核を担う従業員を選抜し、部門横断的な構成とするプロジェクトチームを発足。ニーズの調査、競合他社の分析、特許などの知的財産権の調査などの役割分担を行い、PARKのコンセプト立案についてはチーム全体で考えるなど、決して社長だけのプロジェクトではなく、「従業員全員が“自分事”として関わっていくものである」と認識する機会とした。



コンセプトは「未来に向かって夢をはこぶ」

無人化搬送技術の最先端テクノロジーを集積した 展示場「YMG CARRIER PARK」を、第一工場に開設

物流業界を中心に、各業界で、どのような業務が存在し、どのように作業が行われているのかを調査・分析した。これらの調査結果をもとに、最先端テクノロジーを活用した無人化搬送技術の展示場を、当社第一工場に開設した。新しく採り入れた技術としては、「協働ロボット」「非接触給電」「立体自動倉庫システム」などがある。

「YMG CARRIER PARK」では、4種類の新製品となる自動搬送装置を開発した。具体的には、梱包済みの完成品をパレットに積載するパレタイジング作業と、反対にパレットに積み上げられた荷物をおろすデパレタイジング作業が一体型となった「ガントリーパレタイザー」や、軽量かつコンパクトな、高速移動する立体自動倉庫システム「スタックローダー」などを新たに製品化した。

当社がこれまで培ってきた超高速ガントリーローダーの製造技術のほか、新しく採り入れた技術を融合して、FA機器にイノベーションを起こし、物流業界が抱える、荷物の“積み下ろし”や“運搬”の無人化・省力化の課題を解決した。



非接触給電方式で、キャリア（搬送容器）がレールを走っていく

物流業界・食品工場だけでなく、農業などの幅広い分野において、「人手不足」を解決していく

大きな社会課題として「人手不足」が挙げられる。新たに人材を採用することが難しい今、生産プロセスの自動化を検討することが効果的であると、当社は考えている。一方、「YMG CARRIER PARK」は、当初見込んでいた物流業界や食品工場だけでなく、当地域でも盛んな農業分野などでも活躍する可能性があると考えている。

これからも、新たな挑戦を続ける株式会社ワイエムジーが、無人化のノウハウを活かして、「人手不足」や「生産性向上」など社会課題の解決に取り組んでいく。

【豊橋信用金庫 二川支店・事業支援部】

Toyohashi Thinking



LINE 公式アカウント

とよしのキャンペーン情報や地域の情報など
おトクな情報をお届け！
抽選でクーポンをプレゼント！



@toyoshin

地域に届ける、経営の知的情報。

とよしん 経営サポート



Facebook

補助金や経営お役立ち情報など経営支援に関する
情報をお届け中！



Instagram

経営支援活動の様子や
地域の面白い中小企業などを紹介！



通帳は“紙”から“アプリ”へ

しんきん通帳アプリ

いつでもどこでも
入出金明細や残高をスマホで確認！



＼みんなにエール！／

豊橋信用金庫